

南 風

2018年5月 第24号

私たちの活動の基本理念

みなみかぜ

発行 有秋南小学校区安心安全ネットワーク
問合せ 姉崎保健福祉センター TEL 62-8601

一人ひとりを尊重し
共に支え合い
みんなで創る
私たちのまち

新しいコミュニティ！

“これからの日本社会や、そこでの様々な課題を考えていくにあたり、おそらくその中心に位置していると思われるのが「コミュニティ」というテーマである”

これは、広井良典著「コミュニティを問いなおす---つながり・都市・日本社会の未来」のプロローグの書き出しである。私もまったく同感で興味深い。早速この著書から広井の「コミュニティ」論の一端をみてみたい。

その1. 現在日本社会のコミュニティ

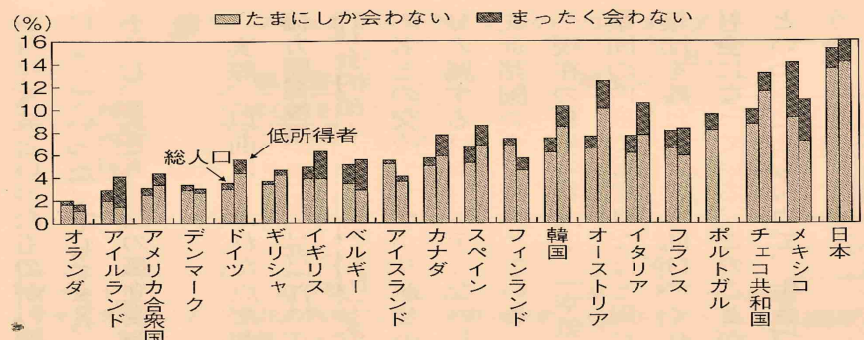
戦後の日本社会とは、「農村から都市への人口大移動」の歴史であったが、都市に移った人々は（独立した個人と個人のつながりという意味での）都市的な関係性を築いていくかわりに、「カイシャ」そして「(核)家族」という、“都市の中のムラ社会”ともいべき、閉鎖性の強いコミュニティを作っていた。そうしたあり方は、経済成長の時代には一定の好循環をなしていたが、経済が成熟化してその好循環の前提が崩れるとともに、カイシャや家族のあり方が大きく流動化・多様化する現在のような時代においては、それはかえって個人の孤立を招き、「生きづらい」社会や関係性を生み出す基底的な背景になっている。

その2. 日本人の社会的孤立とコミュニティ

この図に示されているように、国際的に見て日本はもっとも「社会的孤立度」の高い国であるとされている。その場合「社会的孤立」とは、家族以外の者との交流やつながりがどのくらいあるかという点に関わるもので、日本社会は“自分の属するコミュニティないし集団の「ソト」の人との交流が少ない”という点に

おいて先進国の中で際立っている。日本人は集団の内部では過剰なほど周りに気を遣ったり同調的な行動が求められる一方、一步その集団を離れると誰も助けてくれる人がいないといった「ウチとソト」との落差が大きな社会になっている。このことが、人々のストレスと不安を高め、生きづらさや閉塞感の根本的な背景になっているのではないか。

化、孤独化など、日本社会はいままで経験したことの無い試練の入口付近にあります。お礼の言葉や知らぬ者どうしの挨拶行動などは、社会における人と人の関係性の根本に関わるものであるが、変わっていくのは難しい課題です。しかし新しいコミュニティ創りのための一歩として、意識すれば、誰でもが、何時でも、何処でも出来る日常的なコミュニケーションを始めようではありませんか。



図：先進国における社会的孤立の状況

(出所) OECD (2005)

(原注) この主観的な孤立の測定は、社交のために友人、同僚または家族以外の者と、まったくあるいはごくたまにしか会わないと示した回答者の割合をいう。図における国の並びは社会的孤立の割合の昇順である。低所得者とは、回答者により報告された、所得分布下位3分の1に属するものである。

(出典) World Values Survey, 2001.

その3. したがって日本社会における課題は

「個人と個人がつながる」ような、「都市型のコミュニティ」ないし関係性というものをいかに作っていきけるか、という点に集約される。

その4. 都市型コミュニティをつくるうえでのポイント

ひとつには“集団を超えた普遍的なルールないし原理・原則の構築”という点が大きな課題となり、また“もっと日常的なレベルでのちょっとした行動パターン（挨拶、お礼の言葉、見知らぬ者どうしのコミュニケーション等）”の在りようが同時に重要である。

→ “すぐ出来ること”

人口の減少、少子化、高齢

(注) 都市型コミュニティと農村型コミュニティ

「都市型コミュニティ」とは、独立した個人と個人のつながりというべき関係のあり方を指し、個人の独立性が強く、またそのつながりのあり方は共通の規範やルールに基づくもので、個人間の一定の異質性を前提とする。「農村型コミュニティ」とは、“共同体に一体化する個人”ともいべき関係のあり方を指し、それぞれの個人が一定の「同質性」ということを前提として、凝集度の強い形で結びつくような関係性をいう。

云うまでもなく、日本社会において圧倒的に強いのは「農村型コミュニティ」の関係性のあり方である。(笹野哲郎)

29年度活動報告

子ども支援部 活動報告

(1) 学校・PTA支援活動について

学校支援については、一応出来たと思いますが、今年もPTA活動への協力が不十分であった。PTAとのコミュニケーションを密にする必要がある。

(2) 防災・防犯支援活動

今年度は活動が少ない予定でしたが、児童と消防団や地域の人々との協働によるバケツリレー、更に先生を含む防災ベンリグッズの作成実習など成果もありました。

(3) 安全生活見守り支援活動

昨年より椎の木台と桜台で別個に開催された「訪問

員会議」は如何であったか？ また見守り訪問員の増員が困難であったなど検討が必要である。

(4) 歳末助け合い運動の実施

今年は、12月24日に開催しましたが、やはりPR不足か？ 参加者集めにもう少し研究が必要？

お手伝い頂いた方々にはお礼申し上げます。

安全部 活動報告

(1) 市原市総合防災訓練の地区会場訓練について有秋支所と打合せのもとネットワーク主体で計画作成し、5町会と有秋南小学校一体の訓練を実施した。

①各町会で整備を進めた「安否確認シート」を使った全戸安否確認訓練を初めて5町会そろって実施、各町会の状況確認や更なる改善点の把握ができた。

②南小学校会場訓練として有秋分署、消防団、各町会役員、NWメンバーの協力を得て小学児童1～6年生全員と一体型訓練を

行った。

③ネットワークメンバーの協力による防災ベンリグッズの製作を行った。

(2) 南小学校防災・防犯関連行事への対応

引渡し訓練、市内一斉訓練（集団下校）、マラソン校外練習等へ参加した。

(3) 各町会の「安否確認シート」を活用した訓練と安否確認方式の見直し

①市原市総合防災訓練にて5町会で実施した。

②市原市より「避難行

動要支援者」名簿が関係町会に配布された。

(4) 南小学校「防災教室」の活用と展示品のフォロー

引渡し訓練参加父兄への教室紹介南小先生への防災ベンリグッズ製作講習

(5) 有秋地区防災無線通信訓練

災害時の通信手段確保の一環として有秋支所／アネッサ／東小／西小／南小、相互間の通信確認を実施した。

総務部 活動報告

(1) 会員相互の連携協働を深める

①研修会、懇親会の開催

テーマ「自分のまちの防災体制を知る」ということで、有秋支所防災備品倉庫、防災井戸、福増クリーンセンター姉崎分場応急給水施設、市役所

防災備品倉庫および更級公園の防災設備など見学した。また、市危機管理課 地域防災マネージャー 内田氏による防災講義頂いた。

②安心訪問グループとの合同研修会および懇親会（フォローアップ研修）

講師；たいよう 中島所長
テーマ；相談を受ける時の心構えについて

(2) 地域情報を共有するために広報誌「みなみかぜ」の発行

20号、21号、22号、23号を発行

(3) 先生、保護者及び学校支援ボランティアとの交流を図る。

運動会参加、バザーの手伝い、マラソン立会い、グランド草刈作業やありがとう集会などに参加し交流した。

(4) 防災・防犯について学ぼう

①市総合避難所訓練

（市原市、9月3日）

②避難所運営の体験訓練

（地区社協・ネットワーク共催、11月11日）

③防災研修 （1月31日）

安心生活見守り支援事業活動報告 {安心訪問グループ}

(1) 「安心訪問の質の向上」について

①実際の活動の中で民生委員や地域包括支援センターとの連携を図った。

②クリスマスには、希望者へブレゼントを贈るなどして交流を



深めた。

③訪問員のフォローアップ研修を実施（2017. 7. 12）

(2)「隠れた訪問希望者の顕在化」について

①今年度は昨年に比較して、希望者が3人、訪問員が2人減少した。希望者減少のうち2名は、家族の住む近辺への転居。この家族近住は好ましいことではなからうか。

②独居高齢者や高齢者のみ家族が増えている中、参加者が増えないことは問題である。

30年度活動計画

活動の基本理念

“一人ひとりを尊重し、共に支え合い、みんなで創る私たちのまち”

目標と活動（事業）

(1)ふれ合い・支え合いの絆を強めよう！

- ・子どもたちを支え育てる活動
- ・安心生活見守り支援事業
- ・広報活動・啓発活動の充実
- ・歳末たすけあい事業

(2)安全なまちづくりを進めよう！

- ・地域の安全を守る仕組づくり
- ・防災意識・行動の啓発活動

(3)ネットワーク活動を推進しよう！

- ・自己研鑽、相互研鑽活動
- ・他団体との連携強化活動

子ども支援部

活動計画

(1)子どもたちを支え育てる活動（学校・PTA支援活動）

- ・学校行事のスケジュールを確かに把握して、少しでも応援が増やせるよう努める。
- ・PTA活動には、PTA会長との「話し合い」をして応援項目を確定したい。

(2)地域の安全を守る仕組づくり（防災・防犯支援活動）

「30年度市原市主催防災訓練」に子ども支援部の協力を頂き、児童と参加していきたい。

(3)安心生活見守り支援活動

地域別会議の充実に心掛け、桜台・椎の木台の安心訪問員の充実、希望者の増に努めたい。

(4)歳末たすけあい事業の実施

昨年実行できなかった小役員会を立ち上げ、企画・運営について打ち合わせを進めたい。

安全部 活動計画

(1)地域の安全を守る仕組づくり

・市原市総合防災訓練の機会を活用し、各町会の実態に見合った全戸安否確認と避難および避難支援方法の周知を図る。

・市原市より配布の「避難行動要支援者」名簿に基づく避難支援プラン具体策について情報交換し、各町会のプランづくりに生かす。

・南小災害対策本部」とNWメンバーおよび支援メンバーの互いに顔の見える関係づくりを進める。

・南小学校防災・防犯行事への対応

(2)防災意識・行動の啓発活動

- ・南小「防災教室」の利用と展示品のフォロー
- ・防災研修の実施、参加によるレベルアップ

総務部 活動計画

(1)自己研鑽・相互研鑽活動

- ・研修会、懇親会の開催
- 2019年1月30日（水）予定

南小ネットワーク会員名簿

No	氏名	役職	専門部	所属
1	笹野 哲郎	会長	総務部	桜台お助けマン互助会
2	合田 祐二	副会長/子ども部長	子ども部	レクリエーション協会副会長
3	宮崎 栄	副会長	安全部	桜台自治会会長
4	奈良輪 義男	監事	子ども部	椎の木台自治会相談役
5	青木 勇司	理事/安全部長	安全部	県災害対策コーディネーター
6	井倉 健二	副会長/総務部長	総務部	椎の木台自治会監事
7	宇井 明	理事	安全部	天羽田町会長
8	豊田 博	理事	安全部	深城町会長
9	伊井 政志	理事	安全部	みどり町会長
10	大津 弘美	理事/安全副部長	安全部	椎の木台自治会会長
11	土橋 康夫	理事	安全部	市災害ボランティアNW会長
12	福原 昌章	理事	総務部	有秋南小学校校長
13	坂井 真由美	理事/総務副部長	総務部	民生委員児童委員
14	小川 洋介	理事	安全部	福祉NW推進委員
15	藤原 忠	監事	安全部	明推協
16	東島 光子	理事/子ども副部長	子ども部	更生保護女性会
17	郡司 一二三	理事	子ども部	民生委員児童委員
18	並木 典子	会計	子ども部	民生委員児童委員
19	藤田 富紀子	副会長	子ども部	元主任児童委員
20	山本 知子	推進委員	子ども部	元民生委員児童委員
21	荒木 正範	推進委員	安全部	有秋南小学校教頭
22	悦喜 昭男	推進委員	総務部	桜台お助けマン互助会
23	西山 茂紀	推進委員	子ども部	椎の木台自治会副会長
24	大竹 幸夫	推進委員	子ども部	桜台自治会副会長
25	中島 義幸	推進委員	子ども部	有秋南小学校PTA顧問
26	青木 清彦	推進委員	子ども部	有秋南小学校PTA顧問
27	佐々木 美和	推進委員	子ども部	有秋南小学校PTA会長
28	鈴木 俊一	協力員		民生委員児童委員
29	青木 祥代	協力員		元民生委員児童委員
30	島崎 美智代	協力員		元民生委員児童委員
31	鈴木 節子	協力員		元社協有秋支部
32	野口 良枝	協力員		更生保護女性会
33	小島 弘子	協力員		更生保護女性会
34	竹内 秋子	協力員		民生委員児童委員
35	岩崎 キ又工	協力員		女性部会
36	泉水 清	協力員		町会役員OB
37	泉水 和浩	協力員		青少年相談員
38	田久保 茂	協力員		有秋南小PTA役員OB
39	大下 裕次郎	協力員		有秋南小PTA役員OB
39	亀田 文夫	協力員		町会役員OB
40	小原 幸治	協力員		町会役員OB
41	鎌田 敏子	協力員		民生委員児童委員
42	原田 美津子	協力員		民生委員児童委員
43	大野 昭利	協力員		天羽田町会長代理
(市社協地区担当)				
	富樫 一貴			市社会福祉協議会



- ・安心訪問グループとの交流を深める
- ・「市原市総合防災訓練」(9月2日)、「避難所運営訓練」(11月10日)に積極的に参加する。

(2) 広報活動・啓発活動の充実

「みなみかぜ」発行(年4回)

(3) 他団体との連携強化活動

- ・先生・保護者及び学校支援ボランティアとの交流を深める。
- ・保護者(P.T.A)に対して、NW活動の内容をアピールしていく。

安心訪問グループ 活動計画

(1) 安心生活見守り支援事業

- ・魅力ある訪問方法を工夫しよう。各種イベントへの参加、茶話会、体操会などの実施。
- ・隠れた訪問希望者を顕在化しよう。
- ・支え合い・助け合いの地域づくりに寄与しよう。

南小先生の異動 (平成29年度末定期人事異動)

<敬称略>

【退職・転出】

教諭	江村	東上	絹博	江樹	退職
教頭	村加	曾利	礼子	有秋東小へ	
教諭	坂本	由依	明神小へ		
教諭	村内	優子	国府小へ		
講師	川村	将之	姉崎小へ		

【転入】

教頭	荒木	正範	五井小より	
教諭	宮澤	美和子	青葉台小より	
教諭	廣瀬	亜弓	白金小より	
教諭	岩佐	美和	菊間小より	
心のサポーター	勝野	さやか	新規採用	



グラウンドで声援しよう!

南小春季大運動会

平成30年5月19日(土)

(雨天順延)

午前8時30分~14時30分

敬老席もあります!
みんなでゆっくり楽しもう!

イベント案内 (5月~8月)

月	日	曜	行 事
5	11	金	南小引渡し訓練
5	15	火	NW推進委員会 (椎の木台)
5	16	水	南小草刈ボランティア
5	19	土	南小春季大運動会
5	22	火	安心訪問員会議
5	26	土	有秋中体育祭
6	2	土	有秋ミニ集会 (東小)
6	3	日	市内一斉清掃デー
6	19	火	NW推進委員会 (桜台)
6	20	水	南小草刈ボランティア
7	15	日	有秋地区盆踊大会
7	17	火	NW推進委員会 (椎の木台)
7	18	水	南小草刈ボランティア
7	24	火	安心訪問員会議
8	20	月	南小草刈ボランティア
8	21	火	NW推進委員会 (桜台)

編集後記

本号は新年度版ということで、地域の方々へ南小ネットワークの活動出来るだけ知って頂きたく、昨年度の活動報告も、また新年度の活動計画もなるべく詳細に掲載させて頂きました。そのためにダラダラとした文字ばかりの紙面になり、面白くない内容となりましたが勘弁ください。

今、ゴールデンウィークのさなか、元気な子どもの声がない……。人影のない路面には立夏の強い日差

しが静かに照りつけている。ご存じのように、南小校区地域の子どもや生産者年齢人口の減少と高齢者の増加は特異です。特に独居高齢者と高齢者のみ世帯は、全世帯の40%に達しています。通院・買い物・ゴミ出しなどの日常生活が儘ならず“生きずらさ”を感じながらの生活を余儀なくされている方も多く居られると思います。誰もが“安心して住めるまち・共に支え合うまち”に一步でも近づけるよう、みんなで考え話し合っ

て新しいコミュニティ創りを進めましょう。(S.T)